

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

三宅正浩（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

福島大学資料研究所は、教職員の有志団体である「福島大学貴重資料調査検討会」（以下検討会）を母体としている。検討会は福島大学 60周年記念を機に、2009年5月に「福島大学で保持している、貴重な標本、物品、コレクションを把握し、貴重な資料物品をリスト化し、大学としての誇りや一体感の向上に資する」を目的に発足し、これまでに福島大学内の貴重な学術資料の調査に取り組み、『福島大学貴重資料集』第1号（2010年3月31日発行）、第2号（2011年3月31日発行）、第3号（2012年3

月31日発行）を出版し、教職員全員に配布すると共に、福島大学リポジトリで公開してきた。福島大学資料研究所は貴重資料集の編集発行など、大学の公的な機関として行う方が好ましいと思われる検討会の一部の事業を引き継いで実施をしていく予定である。また、教職員有志の団体ではできなかったことも行う予定である。

福島大学資料研究所は2015年2月23日に発足したばかりであるが、平成26年度に『福島大学貴重資料集』第4号の編集をおこなった。内容は以下の通りである。

1. 猪苗代湖ポーリングコア試料 (INW2012-1, 2)
2. 陸奥国伊達郡伏黒村・富田忠左衛門家文書
3. 「松川の塔」碑文草稿
4. 経済学部森合校舎ジオラマ
5. 福島県産マルコガタノゲンゴロウ標本
6. 櫻井信夫福島県相双地域植物標本コレクション
7. 福島大学周辺の古道

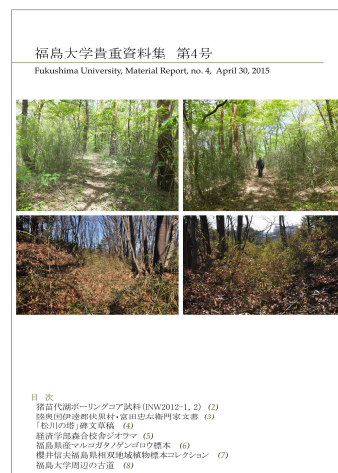


図1 福島大学貴重資料集第4号表紙

また、2015年3月9日に行われた、日本植物分類学会第14回大会標本室見学会の開催に協力した。この標本室見学会では、全国の学外の大学や研究機関等の研究者23名が福島大学共生システム理工学類生物標本室 FKSE の見学や標本調査を行った。

FKSE では2015年2月23日～3月31日の間に、先の標本室見学会参加者も含めてのべ52名の学外の研究者の訪問利用があった。また、標本データベースのデータの照会が研究者から1件、交換標本の送付が国内の博物館から1件あった。